

## 群馬県の肉用牛生産業の現状と課題

一般財団法人 群馬経済研究所  
主任研究員 小此木伸一

### ～要 約～

1. 群馬県の肉用牛の生産は、2016年実績で153億円にのぼり全国15位の規模である。生産が盛んな地域は前橋市と太田市で、両市の飼育頭数を合わせた県内シェア（15年）は50%を上回る。
2. 県内の肉用牛の飼育頭数をみると、ホルスタイン種など乳用種のめずに黒毛和種などの和牛のおすを交配した「交雑種」と「和牛」がほぼ同じ割合となっている。
3. 肉用牛生産業は経営形態により、繁殖経営と購入した子牛を食肉用に育てる肥育経営に分類される。肥育経営は繁殖経営に比べ、一般的に飼育する牛の頭数が多く、給餌や排泄物処理のための大型機械が入れるよう牛舎のつくりが大きいなどの特長がある。
4. 肉用牛生産業者へのヒアリングで肥育経営のポイントを聞いたところ、①肉質や体格などに影響する血統の良い子牛の購入、②発育時期に応じた与える飼料の工夫、③出荷間近の牛の事故防止、などが挙げられた。
5. 繁殖経営のポイントでは、①血統の良い子牛の生産、②出産と生後3カ月までの子牛管理の徹底、③年1頭の出産間隔の実現、④自給飼料や稲わらの活用による飼料コストの削減、などが挙げられた。
6. 一方、牛肉の流通・加工に関わる事業者に、県産牛肉の流通、市場での評価、消費拡大策などに関してヒアリングを行ったところ、①牛肉ではブランド力の向上と地産地消の推奨により銘柄牛の流通が主流となっていること、②輸入牛肉との味の比較では国産牛肉、特に和牛の評価が高いこと、③輸出拡大のため、県の主催による欧州での販売促進活動を3年連続で実施したこと、などが挙げられた。
7. 県民の牛肉消費量は全国でも低いレベルにあり、地産地消による拡大余地は大きい。また肉の芸術品ともいえる和牛は海外での評価も高いことから、富裕層だけでなく所得水準が向上している東アジア地域の間層などの新たな市場の開拓が重要であろう。

キーワード：和牛 上州牛 肥育 地産地消 食料品輸出